



こいそ としお 小磯 利雄 議員

### 町道整備

## 折木の町道に歩道を

町長／用地協力得られていない

**小磯**  
①折木東下亀ヶ崎の町道整備に進展がありませんが、町道整備計画について伺います。  
②北迫線、下浅見川線の経済性について具体的に伺います。  
③現状の町道は交通安全上問題があると思われ、考えを伺います。

**町長**  
①町道高倉・亀ヶ崎線は平成18年度までに1461mの歩道を設置しました。

### 土砂搬入

## 町に相談はあったか

町長／相談受け理解得るよう要請

**小磯**  
①令和3年7月からの4年間、平日毎日延べ台数450台、総受入量118万㎡の建設発生土が折木下原地内へ搬入されること、近日中には登録予定とありましたが、町に相談はありましたか。  
②防災緑地の搬入土量は約11万7000台と搬入は増えたと聞きました。町はこれまでに地元合意が前提と言われていたが、実施事業者は聞いていないとのことでしたがどうされますか。

**町長**  
①1月21日に大量の土砂を搬入するための住民説明会について相談があり、地域住民への説明と理解を得てから事業に着手するように要請しました。  
②防災緑地等の搬入土量は総量62万㎡、10tダンブトラックで換算し約11万7000台となっています。  
③令和3年3月に福島県土木部長に対し、前第4行政区長と緊急要望書を提出し、地元調整・同意を得た書類の添付を義務付けることを要請しました。  
事業者に対し周辺住民への説明と地元調整・同意を得てから事業に着手するよう要請しています。

### 行政組織

## 効率化の取り組みは

町長／適切に対応している

**小磯**  
①行政組織のスリム化、高効率化、低コスト化を図るため組織の統合・廃止・兼務体制について伺います。  
②新型コロナウイルスの影響による税の徴収猶予の申請件数と今後の税収見込み、対応について伺います。  
③少子高齢化の進行、頻発激甚化する自然災害への的確な対応体制について伺います。

**町長**  
①課内での兼務辞令を発令し、職員負担の平準化に取り組んでいます。  
②令和2年2月1日から令和3年2月1日までに納期限が到来する町税の徴収猶予申請件数は10件です。

### こんな質問もしました

災害時の初動対応  
災害発生時に町民にメッセージ送信を  
町長/緊急速報メールを送信

現時点での徴収猶予は、収納、減免により4件、約250万円です。  
徴収猶予期間内の納税がなかった場合には、催告、滞納処分を行います。  
③住民のとるべき避難行動の理解と避難行動の確立を図り、避難に際し配慮が必要な方には、消防団、社会福祉協議会、民生委員等の取り組みによりの確に対応します。  
避難所開設・運営訓練を踏まえ、住民の生命・財産を守り、瞬時に安全な避難体制を敷いていきます。

### 災害対応

## 避難行動の手順書充実を

町長／河川ハザードマップを作成

**渡邊**  
①災害発生時における、対応のための行動規範の手順書は必要不可欠なものです。今後の取り組みについて伺います。  
②町内には数多くのため池がありますが、事故防止対策はどのようになっていますか伺います。  
③災害対応を踏まえた道路行政は今後のように進めるのか伺います。

**町長**  
①総合的な防災マップを令和2年3月に作成し全戸配布しました。災害に対する防災・減災の行動規範の手順書として、河川のハザードマップの作成に取り組みます。  
②県は、町内にあるため池14カ所を防災重点農業用ため池として指定しました。  
町は、令和2年度に西の沢ため池、関の上ため池、小松ため池、本沢ため池の4カ所の耐震診断を実施した結果、問題がないことを確認しました。残る10カ所について耐震診断を実施します。

③生活道路の未改良区間の解消も進め、緊急時の対応が図れるように整備に取り組んでいます。  
道路整備計画、災害対応を踏まえて、生活を守るための道路整備を、第2期復興・創生期間の新たな10年のかで計画的に進めていきます。

### 二ツ沼公園

## 来客増加への取り組みは

町長／イベント通してPRする

**渡邊**  
①二ツ沼総合公園への来客増加策、および公園内施設を利用した利益拡大に向けた今後の取り組みについて伺います。  
②(株)広野町振興公社の事業現況と、今後の展望は出資者として町として臨むのか伺います。

**町長**  
①二ツ沼総合公園の新たな魅力の創出を図るべく、広野産バナナやふたば未来学園の高校生と6次化商品の開発など、魅力を効果的に組み合わせ、PR活動を積極的にを行い、来場者の増加・利益拡大を追求していきます。  
②広大な芝生広場と大型遊具は、家族連れのに憩いの場となっており、パークゴルフ場は町内

外から年間約3万人の利用者があります。  
広野産バナナ事業における生産基盤の強化や国産コーヒの試験栽培に着手し、健全な経営体制を構築し、暖房費の省エネルギー化を図るため、再生可能エネルギー導入に取り組んでいます。  
町と東京大学アイソトープ総合センターの共同事業など、町は(株)広野町振興公社と町勢進展のため協働で取り組んでいきます。



わたなべ まさとし 渡邊 正俊 議員



広野産バナナ